平成３０年度第２回東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）
次　　第

日時：平成３１年１月１７日（木）
午前１０時～
場所：東温市役所４階　大会議室

１．開会

２．あいさつ

３．協議・報告事項

（１）地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について・・・・【資料１】

（２）市内バス路線の利用状況及び高齢者サロンでの活動報告について【資料２】

（３）久万高原町（笠方）から横河原への交通空白地運送について・・・【資料３】

４．閉会

＜事前送付資料＞
【資料１】地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価（案）
【資料２】市内バス路線の利用状況及び高齢者サロンでの活動報告
＜当日配布資料＞
【資料３】久万高原町（笠方）から横河原への交通空白地運送（案）

平成３０年度第２回

東温市地域公共交通活性化協議会（東温市地域公共交通会議）出席者名簿

	団体	役職	委　　員	備考
1	東温市	副市長	大石　秀輝	
2	株式会社伊予鉄グループ	取締役	大政　憲司	（代理）竹中　由紀夫
3	東温市タクシー連絡協議会	会長	和田　宏一	
4	愛媛県バス協会	専務理事	稲荷　和重	（欠席）
5	愛媛県ハイヤー・タクシー協会	専務理事	田所　秀志	
6	国土交通省松山河川国道事務所	計画課長	福田　尊元	
7	愛媛県中予地方局	建設企画課長	石井　利幸	
8	東温市産業建設部	部長	丹生谷　則篤	
9	東温市区長会	会長	三棟　義博	
10	東温市老人クラブ連合会	会長	田中　康雄	
11	東温市婦人会	会長	髙須賀　惠美子	
12	東温市ＰＴＡ連合会	顧問	門地　剛史	（欠席）
13	東温市社会福祉協議会	会長	藤原　弘	
14	市民の代表（公募）		藤本　貞夫	
15	市民の代表（公募）		横手　裕子	
16	松山南警察署	交通課長	石丸　友健	
17	伊予鉄道労働組合	副執行委員長	寺田　淳泰	
18	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 （総務・企画担当）	山本　充一	
19	四国運輸局愛媛運輸支局	首席運輸企画専門官 （輸送・監査担当）	谷本　昌啓	（欠席）
20	愛媛県	中予地方局 地域政策課長	久保田　晶	（代理）野本　栄介

久万高原町面河地区地域運営協議会	事務局長	重見　丈典	
久万高原町面河地区地域運営協議会	交通部長	髙岡　利三	
久万高原町総務課秘書政策班	係長	伊藤　敦志	

平成３０年度第２回東温市地域公共交通活性化協議会　議事録

日　時：　平成 31 年 1 月 17 日（木）10：00～11:00
会　場：　東温市役所　大会議室

１．開会

進　　行：　これより平成３０年度第２回東温市地域公共交通活性化協議会を開会する。

２．あいさつ

会　　長：　＜挨拶＞

３．協議・報告事項

（１）地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について

事　務　局：　＜説明（資料１）＞

会　　長：　何か質問等はあるか？

藤　　本：　今回の事業評価では、目標としている１便あたりの利用者数３人以上を達成できなかったとのことで、乗降調査は、年に２回（５月と１０月）に実施していると思うが、横手委員が代表を務めている「みんなの公共交通を考える会」が年に５回ほど滑川渓谷等にツアーに行かれているということで、年間で乗降調査を実施することはできないのか？

事　務　局：　こちらとしては伊予鉄さんに年に２回ではあるが乗降調査にご協力いただいているという立場である。

藤　　本：　年に２回の調査をされていることは、それはそれでいいのだが、参考までに年間の利用者数を調査する必要があるのではないかと思う。というのも、横手委員のツアーなどで観光目的で滑川渓谷に行っている人も結構いると思う。路線ごとで地域の人口が減っているので利用者が減っているというのもあるとは思うが、その代わりに観光目的での利用者も増やしていくというのも公共交通を残していくためには大切であると思う。

会　　長：　滑川線は観光地である滑川渓谷があり、時期的なものもあると思うので、年間を通じての調査もして利用促進につなげていけるよう検討いただきたいと思う。伊予鉄バスさん、何か意見等はないか？

竹　　中：　毎回同じような話にはなるが、一般の路線バスを含めて苦戦しているというのはご認識いただいているところではあると思うが、我々も路線バスを維持していくために努力していきたいと思っている。東温市からの補助や、熱心な市民の方のおかげで維持ができているので、引き続き皆さんも公共交通に興味を持っていただき、バスがなくなったらどうなるかということを考えていただきたいと思う。また、本日久万高原町の方が来られているが、久万高原町には伊予鉄南予バスが走っていたが、そのバスがなくなったので代替えの交通手段を考えないといけなくなったために、今回こちらにお越しいただいている。それらを自分たちに置き換えていただいて、引き続き公共交通をご利用いただけたらありがたいと思う。

会　　長：　伊予鉄さんには大変ご協力をいただいているところである。事業評価の改善点のとこ

ろにも入れているが、今後広報誌など様々な媒体を利用して、１人でも多くの人が利用していただけるように公共交通の周知等に努めていけたらいいと思う。他に意見等はないか？

藤　　原：　山間部では、催しものやイベント、観光等でＰＲをして盛り上がっているのでそういったことで山間部を訪れる人は増えていると思う。ただ、公共交通を利用して参加しているかどうかということには疑問が残るので、皆さんが利用しやすいような公共交通の方法を工夫してもらったら、公共交通を利用して訪れてくれる人も増えてくるのではないかと思う。

会　　長：　皆さんもご存知のとおり、地域おこし協力隊等で、各地域様々なイベント等を実施しているところではあるが、今後そのイベント等の周知方法についても、公共交通を利用してもらえるように考えていけたらいいと思う。

横　　手：　先ほど藤本委員のおっしゃられたことに補足で、年に５回ほどツアーを開催しているが、４月は源太桜、６月は白猪の滝、７月の後半と８月の頭に２回滑川渓谷に行き、１１月の秋は滑川渓谷や色々なところに行ったりしている。東温市は本当に名所が多いので、観光で行ってみたいという人が多くいる。ツアーを企画したときは応募もたくさんあり、白猪の滝へ行くときは菖蒲園もあわせて行くので、バスも満員になるくらいである。一般の方でイベントをご存知の方も多く、我々のツアーとあわせてバスを使って来たりしているので、大変需要があると感じている。東温市内だけではなく、松山市の方などにも周知することによって利用する方が増えるのではないかと思う。また、夏休みに東温市の子どもたちが、山間部に行くわんぱく広場などに参加する際にも、バスを使ったことのない子どもたちに、バスを体験させてあげるのは非常に良いことだと思うので計画を立ててみてはどうかなと思う。人数的に多くなりそうであれば、行きに利用する人と帰りに利用する人をわけて利用するのも良いのではないかと思う。

藤　　本：　高齢者サロンでの活動報告の中に土曜日は運行できないということはわかっているという記載があったが、１２月の広報誌の中に、路線バスを使って白猪の滝に行ってみませんかという記事があった。そのように路線バスで行く方法を周知しているが、広く一般の人が利用できるように、土日も季節的に運行することはできないのか。

事　務　局：　平成２６年までは土曜日も運行していたが、利用者数が少なく、現在走っている平日の便数を維持するために運行をやめた経緯がある。例えば月に１回でも土曜日を運行するようにした場合でも、そのために運転手さんの確保や人件費、燃料費等のコストもかかってくるので事業者的にも負担になってくるのではないかと思う。現在の利用状況ではなかなか厳しいのではないかと感じている。

竹　　中：　事業者として補足すると、バス業界は人員不足が深刻になっており、人員が充足している会社はないという状況である。その中でもなんとか頑張っているのだが、特に土曜日や日曜日というのは、貸し切りバスの仕事なども多く、そのような収益のいい仕事がある中で、土曜日を走らせるというのは、可能といえば可能だが、人件費うんぬんよりも貸し切りバスで本来出る収益の仕事をお断りして臨時バスの方にとなると二重で負担がかかってきてしまう状況になり、ただでさえ苦しい経営状況の中、さらに苦しくなる。このような人員の不足さえなければ、季節的にある一定期間だけ運行

することは可能だと思うが、日本全国同じ問題があり、そのあたりが解決できないと難しいと考えている。

会　　長：常日頃から利用促進に努め、それで多くの人が利用するようになれば良いのであるが、現状の人員不足等の問題もあり、現状では土曜日や日曜日の運行は難しいとのことである。他に意見や質問等はないか？

各 委 員：＜質問・意見なし＞

会　　長：なければ、地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価については案のとおり運輸局に提出することとしてよいか？

各 委 員：＜全員賛成＞

会　　長：ご承認いただいたので、本日付けで四国運輸局には提出いたしたいと思う。

（２）市内バス路線の利用状況及び高齢者サロンでの活動報告について

事 務 局：＜説明（資料２）＞

会　　長：何かご質問等はあるか？

山　　本：公共交通の利用促進という意味では、日常的な利用者と観光目的での利用者に向けて行うのが理想的ではあるが、どちらかといえば、高齢化社会に伴って自家用車から離れて行かざるをえない人たちに、公共交通があるという情報を継続して周知していくのが大事だと思う。また、小学生や中学生、これから運転免許を取得しようとしている人にも周知することも大切であると思う。あと、サロンの当日の状況の中で、伊予鉄さんのシルバー定期を所持している人が多かったということに関連して、バスや電車を利用するがシルバー定期を利用していないという人もいらっしゃると思うので、時刻表や乗り方の周知とともに、シルバー定期などの周知もしていけばより良いのではないかと思う。合わせて観光パンフレットなどでも公共交通を紹介するなど、色々なところを絡めて利用促進につなげていけばいいと思う。

寺　　田：公共交通ガイドに時刻表が入っていると思うが、山間部の路線は時刻が変わっていないが、川内線では４月から時刻が変わっている。現在は、ガイドに新しい時刻表を差し込むという形で対応しているが、せっかくいいものを作成しているので、可能であれば新しい時刻表をシールとして貼って対応する方がいいと思う。

会　　長：２０１７年の３月に作成している公共交通ガイドのことだが、在庫はまだあるのか？

事 務 局：まだ在庫があるので、変更した時刻表をこちらで差し込む形で現在は対応している。

会　　長：シールによる時刻表の貼り替えも検討していただければと思う。他にご質問等はあるか？

藤　　本：当日の状況で、ほとんどが公共交通ガイドを持っていないということだが、資料１では公共交通ガイドを継続して配布していくと書いてある。今後も高齢者サロンへの訪問は引き続いて行う予定なのか？

事 務 局：今回訪問したサロンには出席できなかった人もいるようなので、色々な方に現在の状況等を周知するためにも、定期的にサロンには足を運びたいと考えている。

藤　　本：公共交通ガイドがまだいろいろな人に行き渡ってないということだが、各戸配布は行っていないのか？また、高齢者サロンへの参加は年にどれくらい行う予定か？

事 務 局：今回の公共交通ガイドに関しては、各戸配布は行っておらず、駅や川内バスターミナ

ル、市役所などで配布している。今回参加したサロンでも、ガイド自体は駅や川内バスターミナルで見たことはあるが持って帰っていないという人もいたので、そのような人には持って帰っていただいた。また、高齢者サロンへの参加だが、今のところ何回以上という予定は立てていないが、年に１回以上は必ず行くようにしたいと思っている。

藤　　本：　ガイドは、区長さんを通じて各世帯に配布することは可能なのか？

事　務　局：　おそらく可能であると思う。

藤　　本：　ガイドを持ってもらい、利用促進につなげていくということであれば、色々な人に行き渡るような配布の仕方も考えていかなければならないのではないかと思う。

事　務　局：　サロンでも意外と持っていない人も多かったので、そのような方法も今後検討したいと思う。

会　　長：　配布方法についても色々検討していけたらと思う。他に何かご質問等はあるか？

横　　手：　高齢者サロンに参加して、直接聞き取りなどを行うことは非常に大切なことだと思う。今回は山間部ということで、山間部では顔が見える付き合いをしているので、困ったことがあれば割と対応しやすい地域だと思う。個人的に心配しているのは、市街地でも独居で高齢の女性の方が増えていて、膝が悪くて病院や買い物に行けないという人がここ１０年くらいで増えてきているのではないかと思う。そのような方々が、高齢者サロンに参加されているかまでは把握できていないが、市街地で一人で頑張っている人も多いので、今後はそのような人にも目を向けていっていただきたいと思う。現在、社会福祉協議会と長寿介護課で、地域の困りごとの協議体というのが立ち上がっているので、そのあたりとも連携すると買い物に行けない人や、交通の手段がない人などの把握もできると思う。

藤　　本：　過去に、バスの待合所や駐輪場を整備したらどうかというのを提案したことがあるのだが、実際に停留所で駐輪場を整備したところはあるのか？

事　務　局：　市内では今のところ、横河原駅を改修したときに、駅舎に隣接する形でサイクリスト用のサイクルスタンドを設置したのみである。

藤　　本：　金銭面等の理由から検討の余地もないのか？

事　務　局：　個別の小さいバス停全てにとなると、用地等の問題もあるのでなかなか難しいと思う。

藤　　本：　川上学校前バス停の横に自転車がよく停められている。これは遠くの人が自転車でバス停まで来て、そこからバスに乗り換えているというのが考えられると思うが、駐輪場としてきちんと整備すればこのような利用の仕方も増えるのではないかと思うので、今後検討していただきたいと思う。

会　　長：　用地の問題や伊予鉄さんとの兼ね合い等、色々あると思うが、また検討していければと思う。

藤　　本：　加えて、先般大洲市が市内循環型交通を再開するという記事を見た。これは運転免許を返納した市民の方なども大変便利なものであると思うのだが、東温市での検討状況はどのようになっているか？

事　務　局：　当時のワークショップでの検討を踏まえてなのだが、市内には様々なバス路線を伊予鉄さんによって運行いただいている。市内循環型交通を導入するとなると、どこかのバス路線が犠牲になるということで、現在は市内のバス路線を残していくという形と

なっている。

藤　　本：　山間部に目を向けるのは良いことだと思う。しかし、今回ご出席の久万高原町でも、地域住民が代替交通として自家用車で送っていくという取組がある。このような地域の実情に応じた取組を東温市でも検討できたらよいと思う。

会　　長：　この後の久万高原町さんの取組も参考にしながら、今後検討していければと思う。他に意見や質問等はないか？

各　委　員：　＜質問・意見なし＞

会　　長：　ないようなので、以上で市内バス路線の利用状況及び高齢者サロンでの活動報告について終わる。

（３）久万高原町（笠方）から横河原への交通空白地運送について

久万高原町：　＜説明（資料３）＞

会　　長：　平成３０年４月に設立した面河地区地域運営協議会の交通部会において、このような有償運送の検討をされており、笠方の方が有償運送で東温市内を運行するにあたり、本協議会の承認が必要ということで、承認が得られれば、最終的に運輸局に提出するということである。内容について何かご質問等はあるか？

三　　棟：　現在はどのくらいの人が利用しているのか？

久万高原町：　１２月の１０日から社会実証実験として運行している。その結果によると、１４日に買い物で３名、１７日に１名、１９日に２名、２０日に２名、２７日に１名利用している。利用者は高齢者で、足が悪い人も多いため、バスの高さではなく、段差がない電車を利用させてもらえるようにさせていただきたいと考えている。

藤　　原：　笠方ダムができた当時に、東温市に移住された方が多くいた。その方々は、黒森峠を越えて、とにかく街へ出たいという人が多かったと聞いている。そのような点などから、東温市と笠方のつながりは強く、今回のような要望になったのではないかと思う。笠方から東温市に来ていただけるのは、非常に良いことであると思う。

会　　長：　他に意見等はあるか？なければ、久万高原町さんの事業計画のとおり、本協議会としては、承認するということでよいか？

各　委　員：　＜全員賛成＞

会　　長：　承認されたので、久万高原町さんは案のとおり計画を進めていただきたいと思う。他に全体を通じての質問や意見等はないか？

各　委　員：　＜質問・意見なし＞

会　　長：　ないようであるので本日の協議、報告事項は終わらせていただく。

４．閉会

進　　行：　以上で平成３０年度第２回東温市地域公共交通活性化協議会を閉会する。